

科目区分	専門基礎分野	科目名	臨床判断基礎演習	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30時間)	学 期	第1学期
担当講師	(院内講師)・後藤 華奈子			実務経験	有
科目目標	<p>1. 患者の症状が正常な構造・機能から、どのように逸脱しているそのメカニズムについて考えることができる。</p> <p>2. 患者に出現している症状や関連する観察の視点を考えることができる。</p> <p>3. 患者に起きている症状や機能障害が全身に及ぼす影響を考え、臨床判断の基礎的思考力を習得できる。</p>				
授業計画	<p>第1回 臨床判断 (講義)</p> <p>1. 臨床判断とは</p> <p>2. 臨床判断のプロセス</p> <p>3. 臨床判断の思考過程 「気づき」「解釈する」「反応する」 「リフレクション」</p> <p>第2回 臨床推論 (講義)</p> <p>1. 臨床推論 2. 臨床推論モデル</p> <p>3. 臨床推論の方法</p> <p>第3～7回 (講義)</p> <p>フィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーションを用いた臨床推論の実際</p> <p>1. 発熱のある患者</p> <p>2. 腹痛のある患者</p> <p>3. 胸痛のある患者</p> <p>4. 呼吸に異常のある患者 等</p> <p>第8回 終了試験</p>		<p>第9回～15回 (演習)</p> <p>患者の症状に気づき、解釈し、反応し、省察する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者情報(事例)から患者の症状を予測する ・ベッドサイドで患者の症状に気づき、把握する(初期の把握、実践の中の省察) ・患者の状態について推論する ・患者に起きている症状のメカニズムを理解する ・患者に今後起こりうることを予測する ・患者に必要な看護を判断し、実施する(反応、実践の中の省察) ・患者の反応から、患者に提供した看護を評価する 		
評価方法	筆記試験(50%)、課題レポート(10%)、演習参加度・成果物・プレゼンテーション(40%)で総合的に評価				
テキスト	<p>系統看護学講座 解剖生理 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野II 成人看護学②呼吸器 成人看護学③循環器 医学書院</p> <p>看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント 学研</p>				
講師からのメッセージ	<p>模型や視聴覚教材を用いて呼吸器系の構造と機能や呼吸困難について学習する。</p> <p>反転授業、協同学習、グループワークを用いて学習する。</p> <p>気道の構造と機能、肺の構造、呼吸、肺循環と体循環、動脈、静脈、末梢血管、末梢循環、主な症状と徴候(呼吸困難・チアノーゼ・咳嗽・喀痰)、酸素化障害、換気障害、呼吸運動障害、フィジカルアセスメント(バイタルサインの測定、呼吸音聴取)情報収集・アセスメントなど、国家試験出題基準を確認し学習すること。</p>				